

東京都立産業技術研究センターの紹介

東京都立産業技術研究センター 事業化支援本部 実証試験セクター長

田中 実

Tokyo Metropolitan Industrial Technology Research Institute

Tanaka Minoru

Commercialization Support Department

Engineering Validation Sector Chief Tokyo Metropolitan Industrial Technology Research Institute

東京都立産業技術研究センターの事業内容を含めて、紹介いたします。

1. 東京都立産業技術研究センターの役割

東京都立産業技術研究センター（都産技研）は、都内の中小企業の技術支援をおこなう機関である。

急激な技術革新や経済のグローバル化、昨今

においては急激な円高基調と、東京の中小企業を取り巻く環境は大きく変化している。こうした中、基盤技術への支援に加え、ナノテクノロジーや情報技術などの先端技術及び環境・省エネルギーや少子高齢・福祉などの新たな技術課題への迅速かつ効果的な支援が求められている。（図1）

このような状況を踏まえ、技術支援ニーズに

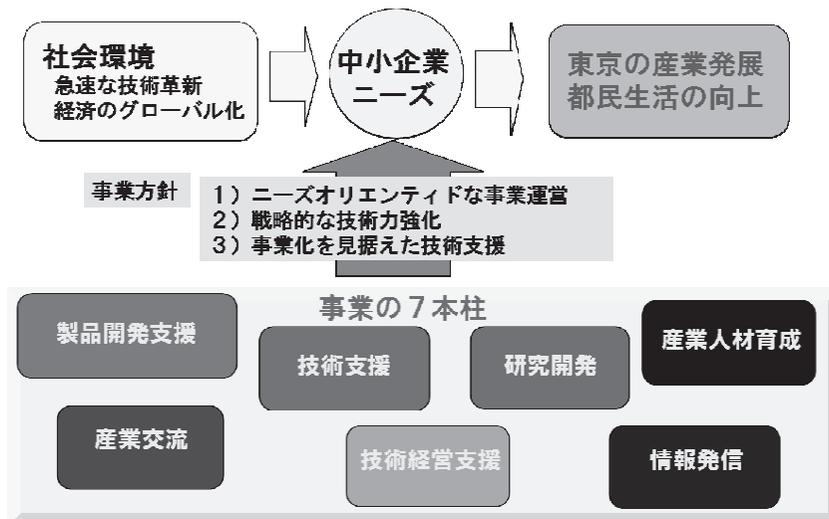


図1 都産技研の役割

〒135-0064 東京都江東区青海 2-4-10

TEL 03-5530-2111

FAX 03-5530-2765

E-mail: tanaka.minoru@iri-tokyo.jp

対する柔軟かつスピーディな支援をこれまで以上に強化するため、平成18年4月、東京都立産業技術研究所（東京都直営）から、地方独立行政法人都産技研へと生まれ変わった。さらに、東京都の産業支援体制の再整備に係る基本構想に基づき、平成22年2月に多摩地区に新しい産業支援拠点、多摩テクノプラザを開設した。また、平成23年10月には臨海地区に新たな都産技研の本部拠点が開設した。

こうした新しい制度と新しい拠点により、弾力的な運営と中小企業の事業ニーズに即した高

品質な技術支援を実施し、都内中小企業の振興を図り、これを通じて都民生活の向上に貢献することが都産技研の役割である。

2. 都産技研の歩みと新拠点整備

都産技研は、90年前の大正10年10月（1921年）に設立された東京商工奨励館を始まりとし、幾つもの統合等、変遷を経て、平成18年4月に地方独立行政法人として、全国の公設試に先駆け独法化し、先のミッションのもと産業支援のための拠点整備を行ってきた。（図2～4）

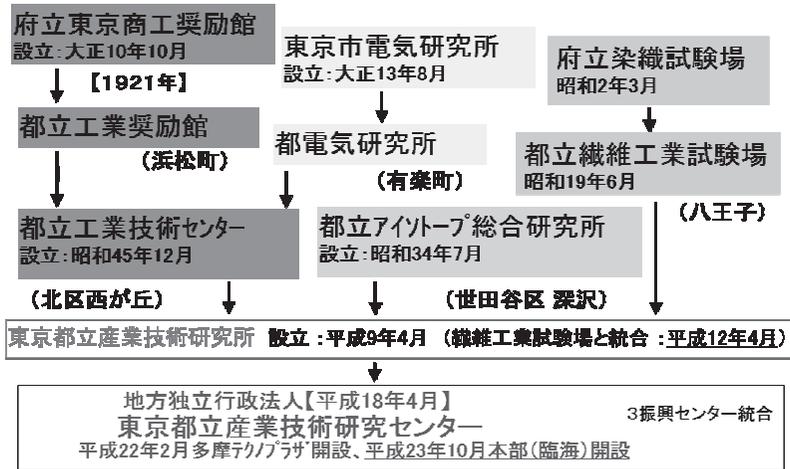


図2 90年の歩み



図3 都内2拠点3支所の位置



図4 本部の地図とアクセス

3. 事業支援案内と組織図

図5には都産技研の事業の7本柱と、図6にはそれを支える組織を示す。

[1] 技術支援

依頼試験：試験測定，分析と技術アドバイス，技術相談：図6にある幅広い分野での相談，実地技術支援：工場等への企業訪問，オー

ダーメイド試験：JIS等に定めなく，個別の試験ニーズ対応

[2] 製品開発支援

機器利用：依頼者自ら試験機器を利用，オーダーメイド開発支援：製品化のための設計・試作・評価などの開発支援，高度分析開発セクター，システムデザインセクター，実証試験セクター

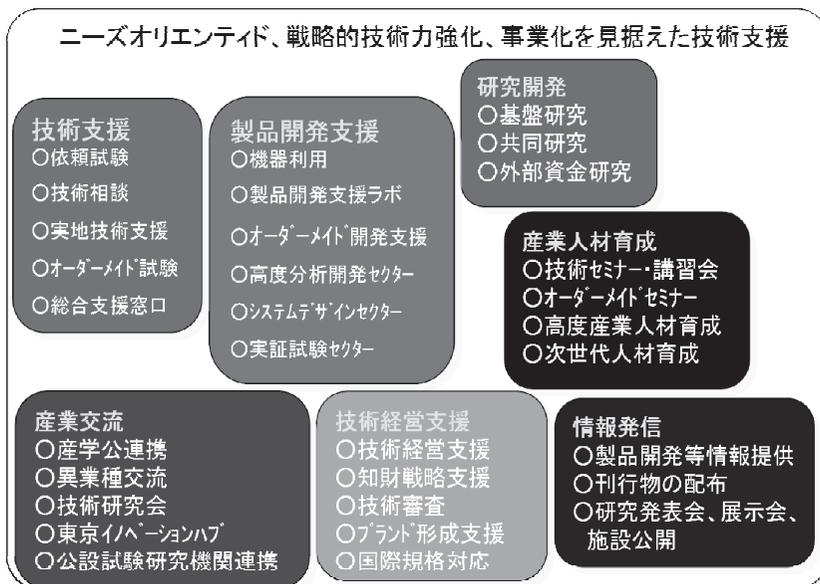


図5 事業の7本柱

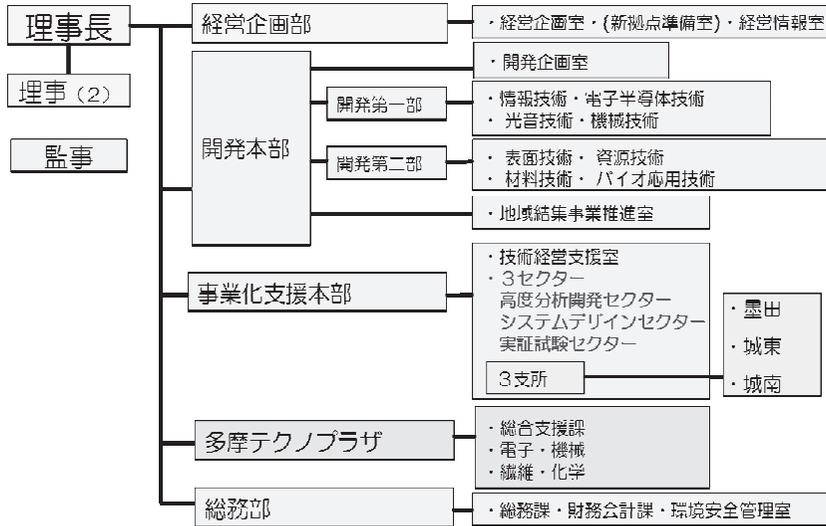


図6 組織図 (平成 23 年 4 月現在 274 名)

[3] 研究開発

基盤研究：将来に向けた技術開発や多くの企業の課題解決，共同研究：企業，業界・団体，大学等との製品化等に向けた研究，外部資金研究：国や財団等の採択研究

[4] 産業人材育成

オーダーメイドセミナー：企業，業界団体等の人材育成ニーズに応じたカリキュラム，高度産業人材育成：個々の企業において高度な研究開発を行う人材の育成支援，次世代人材育成：

インターンシップ学生の受入れ

[5] 産業交流

異業種交流：異業種の企業間交流活動支援，技術研究会：特定分野において課題解決や技術力向上を目指す研究会，東京イノベーションハブ：産学公連携他，展示会や交流会での交流支援の場，公設試験研究機関連携：東京，神奈川，千葉，埼玉，横浜市の公設試験研究機関連携

[6] 技術経営支援

技術経営支援：技術と経営の両立により事業

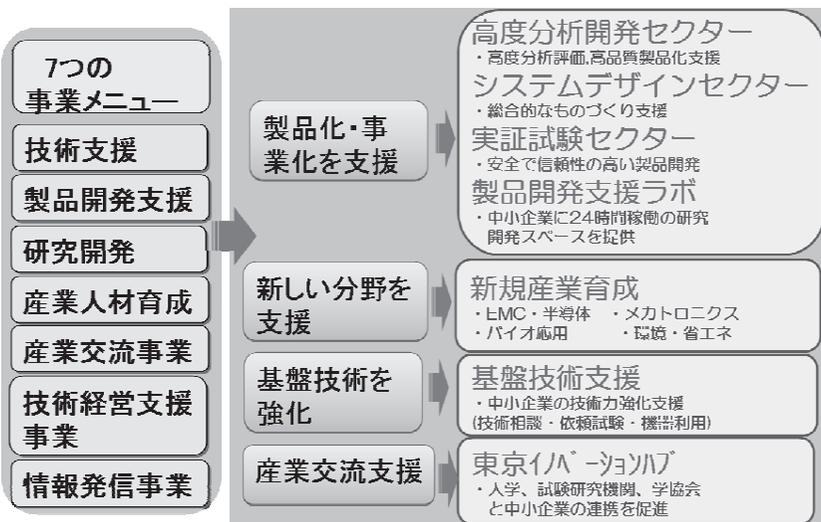


図7 事業メニューからの新たな取り組み

戦略を推進できる人材育成支援、ブランド形成支援：企業のブランド力向上の支援、国際規格対応：輸出、海外進出にかかる試験や規格に係わる情報提供

[7] 情報発信

製品開発等に係わる技術情報提供

4. 本部支援案内と新しい主な取り組み

東京都の産業支援拠点整備事業の一環として、臨海副都心に新たな本部を開設し、一層厳しくなる経済情勢のもと、従来以上に中小企業の技術支援を拡充した。東京の中小企業が大企業の下請けとして生き残るのは難しいため、自前で高付加価値な先端製品を開発し、ビジネス展開してゆく必要がある。そこで新しい本部では3つの技術支援セクター、「高度分析開発セ

クター」、「システムデザインセクター」、「実証試験セクター」を開設した。さらには、24時間利用可能「製品開発支援ラボ」の設置、4つの成長研究分野、「環境・省エネルギー」、「EMC・半導体」、「メカトロニクス」、「バイオ応用」の研究開発に重点的に取り組み、成果普及に努める。勿論基盤技術支援の充実を忘れずに、都産技研ブランドとして「音響試験」、「照明試験」、「高電圧試験」、「非破壊透視試験」、「ガラス技術」などの特徴的な5技術分野に注力・強化した。都産技研は、高い技術力で、プロダクトイノベーションの発信拠点として、ものづくり産業を中心にサービス産業等に至る中小企業支援の拡充をしてゆく。

次のフロアー図は、1階～5階までの新しい本部施設案内図である。

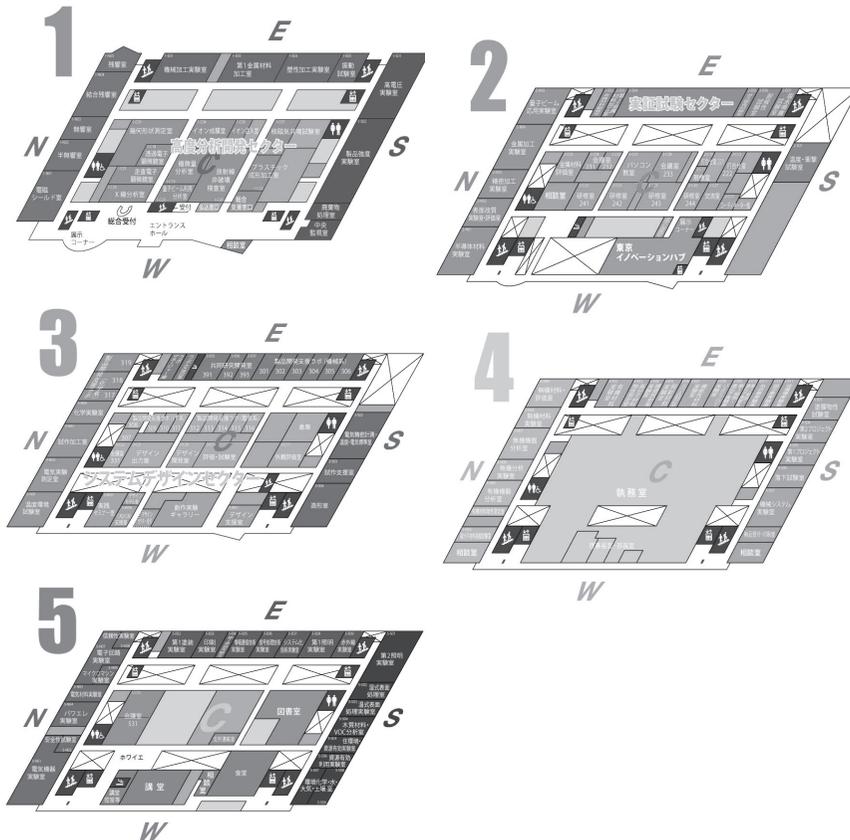


図8 フロアー図 (1階～5階)

[1] 高度分析開発セクター

高度な技術ニーズの対応のため、高度先端機器を集中配置した。各技術部門と高度分析開発セクターが連携し、中小企業の国際競争力強化や高品質・高付加価値なものづくり、研究開発や技術課題の解決を支援する。

[2] システムデザインセクター

都内中小企業のものづくり支援の場として、平成18年9月に開設したデザインセンターの機能と設備を強化した。製品意匠に加え、商品企画から機能、構造、安全性についての設計も「デザイン」と捉え、デザイン活用によるものづくりを総合的に支援する。

[3] 実証試験セクター

安全で信頼性の高い製品開発を支援するため、部品から製品に至るまでの振動、衝撃、耐ノイズ、動作、温湿度、腐食劣化などの評価試験機器38機種を集約し、環境試験関連の相談から依頼試験、機器利用の要望にワンストップで対応する。

電気・温度試験では、電気(直流・低周波)、温度(熱電対)で国際規格ISO/IEC 17025に準拠した品質システムに基づき実施する。

製品・材料強度試験では、2~3000 kNの万能試験機、ねじり試験器など設置し、各種強度試験を実施する。

以上、ご興味のある方は、1頁目に記載の連絡先までご連絡ください。



図9 3セクターの主な施設図
上) TEM 中) 創作実験ギャラリー下) 実証セクターと環境試験機